

# 表象文化論学会

## 第10回研究発表集会

2015 11月7日<sup>土</sup>  
10:00→18:00

東京大学 駒場キャンパス 21KOMCEE

※ 事前予約不要 会費: 会員=無料/非会員=1000円

研究発表 午前 10:00* - 12:00	研究発表 1 (司会) 北村紗衣 (武蔵大学) 「ミュージカル・プレイ」と「ミュージカル・コメディ」のあわいで — ミュージカル『ピリオン・ダラー・ベイビー』における形式の趣向に対する考察 辻佐保子 (早稲田大学) モデルに倣う — ファッションにおけるパターンの出現 平芳裕子 (神戸大学) ガラスの社会主義リアリズム — フルシチョフのソヴィエト宮殿計画案をめぐる考察 本田晃子 (早稲田大学)	East 2F-212
	研究発表 2 (司会) 長谷正人 (早稲田大学) 階段、暴力、結婚 — キング・ヴィダー『結婚の夜』ならびに小津サイレント作品を背景とした、小津安二郎戦後作品の考察 滝浪佑紀 (城西国際大学) 「見ること」から「創ること」へ — 想田和弘監督『PEACE』をめぐる 今村純子 (早稲田大学) 娘たちと「投げる」こと — 小津安二郎戦後期作品における翻案と様式化 宮本明子 (東京工業大学)	East 2F-213
	研究発表 3 (司会) 石橋正孝 (立教大学) 文学場のハビトゥス — 19世紀フランスにおける鏡表象をめぐる 山本明美 (神戸大学) 『新百科全書』 — サヴィーニオの私家版百科全書をめぐる 野田茂恵	East 2F-211
研究発表 午後1 13:30* - 15:30	研究発表 4 (司会) 加治屋健司 (京都市立芸術大学) 李禹煥《関係項》における関係の在り方 — 石・鉄・ガラスとの「出会い」をめぐる 鍵谷怜 (東京大学) 境界なきシアターの暴走 — クリストフ・シュリンゲンズイーブを理論化する セバスチャン・プロイ (東京大学) 保存修復とX線の「暴力性」 — キャサリン・ジルジュ《スザンナと長老達: 修復後》(1998) をてがかりに 田口かおり (日本学術振興会)	East 2F-212
	研究発表 5 (司会) 星野太 (東京大学) ライン・身ぶり・共同体 — フェルナン・ドゥリニエと地図作成の思考 武田宙也 (大阪大学) ジャン=フランソワ・リオタール『言説、形象』における芸術と宗教の関係 渡邊雄介 (早稲田大学)	East 2F-213
	研究発表 6 (司会) 佐藤良明 (放送大学) 「声-字-実相」の系譜学 — 近世日本における国学と密教の言語理論 井出健太郎 (東京大学) 動物を訳す、文化を書く — ベネディクトにおける隠喩と引用の問題について ロビン・ヴァイヒャート (一橋大学)	East 2F-211
研究発表 午後2 16:00 - 18:00	企画パネル 「音と聴取のアルケオロジー」再論 — 「聴覚性」批判からの展望 福田裕大 (近畿大学) 金子智太郎 (東京芸術大学) 樽沼範久 (横浜国立大学) (司会) 福田貴成 (中部大学)	East 2F-212
	ワークショップ アンドレ・バザンの現在 イントロダクション + バザンのウェルズ論 — リアリズムを超えて 堀潤之 (関西大学) バザンの弁証法 — 「田舎司祭の日記」とロベール・ブレッソンの文体論 再読を通して 三浦哲哉 (青山学院大学) 潜在的モニタージュ — バザンとエイゼンシュテイン 畠山宗明 (聖学院大学) デジタルミイラの存在論 — インデックス性を超えて 伊津野知多 (日本映画大学) (司会) 木下千花 (首都大学東京)	East 2F-213
18:30 - 20:30	懇親会 (会員のみ)	West MMホール

\* プログラムは予告なく変更される場合があります。詳細および最新情報は学会ホームページ (<http://www.repre.org>) をご覧ください。

問い合わせ先: 表象文化論学会事務局 〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 東京大学大学院総合文化研究科 表象文化論研究室内 FAX 03-5454-4336 E-mail [repre@repre.org](mailto:repre@repre.org) URL <http://www.repre.org>